今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.8
安房運輸株式会社 様

「一生懸命頑張っているドライバーさんをもっと大切にしたい」安全対策・福利厚生のさらなる充実に力を注ぐ

昭和 18 年に産声を上げ、75 年以上の歴史を重ねて飛躍的な成長を遂げてきた安房運輸。「ここまで成長できたのは社員のおかげです」と石川社長が語るように、同社では社員からの想いに応えるべく様々な施策に取り組んでいる。

大手路線運送会社の幹線輸送などを手がける同社。現社名に変更した昭和 44 年に、車両を現在のツートンカラーに変更している

■「現場を経験したから社員の想いが分かる」コミュニケーションを深め一致団結

安房運輸㈱（石川夕伎夫代表取締役社長）は、昭和 18 年に軍事物資の輸送機関として、館山市に設立された運送会社である（当時の社名は安房貨物自動車㈱）。同社では戦後になって、地場産品の生花や野菜、水産物の輸送を行うようになったが、昭和 30 年代に入ると特別積合せ貨物運送を手がけるようになった。昭和 44 年には、現在の社名へと変更している。昭和 56 年、大手運送会社出身の石川社長が同社に入社。この頃から、大手物流事業者との幹線輸送業務提携を行ったのをきっかけに、同社の業容は順調に拡大。現在では、グループ全体で従業員数 1200 人、車両数 640 台を数えるまでに至っている。なお、平成 25 年には、本社を館山市から君津市に移転している。

さて、同社では安全に対する取り組みを強力に推進しているが、そのきっかけとなったのは、平成 11 年に他社が起こし社会問題化した東名高速飲酒運転事故だった。この事故を機に、運送事業者に対する世間からの安全性向上への要望が一段と高まったため、同社においても世の中の流れに合った形で安全性のさらなる強化に踏み切った。

同社における安全対策を紹介していくと、まず毎月１回、第２金曜日に実施している「激励パトロール」を挙げることができる。これは、深夜に同社の事務職員が、東名高速道路や関越自動車道、東北自動車道、中央自動車道などといった、中・長距離便の運行経路の途中にある高速道路のサービスエリア（SA）・パーキングエリア（PA）に出向いて実施されるもの。運行中のドライバーさんに当該 SA・PA に立ち寄ってもらい、事務職員がドライバーさんの体調確認や車両点検を行うとともに、食料などの提供も行っているという。深夜の疲労の溜まりやすい地点で激励パトロールを実施することで、１人で長時間運転しているドライバーさんにとってはいい気分転換や励みとなってくる。一方で、事務職員にとっても、深夜に走行するドライバーさんの苦労の一端に触れることで、社内全体として安全への意識を一層高めることができるのである。

石川　夕伎夫　代表取締役社長

また、同社では毎月第１・第３金曜日を「車両美化洗車デー」と定め、石川社長や同社の事務職員が出発前のトラックを１台１台手洗いし、ドライバーさんを送り出すようにしている。これは、「日頃から車両に愛着を持ち、常にきれいに手入れをしている人は、事故を起こさない」という考えから実施されているもの。石川社長も長靴姿になって、ドライバーさんのために自ら車両を洗うことも多いという。

「私はドライバー職として運送業界に入り、長年業界での経験を積み重ねてきました。そうしたこともあり、ドライバーという仕事の大変さは良く分かっています。激励パトロールや車両美化洗車デーといった取り組みを通じ、安

点呼時には、毎月定めている「安全スローガン」を確認し、安全意識を高めている

月２回の「車両美化洗車デー」には、出発前のトラックを石川社長が手洗いすることも

ドライバーさんとのコミュニケーションを大切にする石川社長

全への意識を高めてもらうのはもちろんですが、社員同士のコミュニケーションを深めていくことで、会社全体で同じ目標に向かって進んでいるという一体感を感じてもらえる、いい機会になっています」（石川社長）

ドライバー職としての経験を持っている石川社長だからこそ、「会社のために毎日一生懸命に頑張っているドライバーさんを大切にしたい」という思いは人一倍強い。それを反映するように、同社では各種福利厚生制度も充実させている。具体的には、「企業年金制度」や「保養所利用制度」、また知人を会社に紹介し、社員に採用された場合には、紹介した社員に紹介料が、また入社した社員にも入社祝い金が支給される「社員紹介制度」などが導入されている。また、ドライバーさんに対しては自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）での外部研修を受けさせているほか、将来の幹部候補生に対しては管理者養成学校での研修を実施するなど、社員の将来の成長に資するための教育研修にも力を注いでいる。

「かつて私が中間管理職だった頃、ドライバーさんが『運転手』と呼ばれていたことがありました。『ドライバーさんが働いてくれるからこそ、会社は利益を得ることができ、社員全員が生活できている』と考えていた私は、それを聞き、なぜまるで物のように見下して彼らのことを呼んでいるのかと、不思議に感じていました。会社のために一生懸命頑張ってくれる当社のドライバーさんに対して、会社としてできる範囲で貢献していきたいという思いから、当社ではこれまで福利厚生制度の充実にも取り組んできました。日々コミュニケーションを深めたり、福利厚生を充実させていくことで、ドライバーさんにとっても当社で働くことへのモチベーションが高まります。現場を経験してきた自分だからこそ、こうした視点が生まれるのではないかと感じています」（同）

社員をもっと大切にしていきたいとの思いから、同社ではいち早く「社員の脳ドック受診」にも乗り出している。40 歳以上のドライバー職と管理職を対象に、年間 350 人程度が脳ドックを受診。それにより、脳動脈瘤が発見された社員もいます。その社員は、脳動脈瘤の発見後に退職を検討した時期もあったが、同社の勧めで手術をし、現在は仕事に復帰している。仕事への復帰の際には、社員の妻から感謝の手紙が贈られたという。

25 年には、会社創立 70 周年を迎えた同社。今後、創立 100 周年に向けて様々な取り組みを積極的に推進していく石川社長に、今後の方策について聞いた。

「当社は、ドライバーさんから事務職員まで、社員全員のおかげでここまで成長することができました。私のモットーは、『人生俺が俺がの我を通すより　おかげおかげのげで通せ』です。企業のトップであるからこそ、この言葉が示すように謙虚な気持ちをもって仕事に取り組むことが大切だと考えています。今後に向けては、『安全で安心な経営』を目指していきます。いたずらに会社の規模を大きくしてしまいますと、管理が行き届かなくなってしまいかねません。安全やコンプライアンスをこれまで以上に重視していくとともに、ドライバーさんの『働き方改革』にも積極的に取り組んでまいります」（同）

ホットにゅーす

人生をより豊かにする「読書」　近年は自身の健康づくりにも取り組む

グループ全体で 1200 人規模の安房運輸を率いる石川社長。趣味を尋ねると、「本や新聞を多く読むこと」だと話してくれた。「経営トップとしては、仕事の話だけではなく、いろいろな話題で話をすることができることが大事です」と話すように、本社の社長室には様々なジャンルの本が山積みになっていた。

そして、同社が 70 周年を迎えたのを機に、石川社長はゴルフやウォーキング、そして筋肉トレーニングなど、健康に関することは何でも行うようになったという。「若い頃は毎日仕事に忙しい状況でしたが、60 代半ばを過ぎ、自身の健康にも気を配るようになりました」と、石川社長は語る。

健康づくりに余念のない石川社長。今後も力いっぱい、同社グループをけん引していくに違いない。

読書が趣味の石川社長。社長室には多くの書籍が並べられている

企業プロフィール

安房運輸株式会社

代表取締役社長　石川　夕伎夫
千葉県君津市中島 410
従業員　1,200 人（ドライバー 640 人）
台数　　640 台
※従業員・車両台数はグループ全体の数字
※従業員数にはパート・アルバイトを含む